

～小中一貫教育の新たな展開～

はじめに

令和2年4月、小野市は「夢と希望の教育」振興計画を見直し、第Ⅲ期をスタートさせました。基本理念を「超スマート社会(Society5.0)を豊かに生きる力を育む、自立して未来をひらく人づくり一川島隆太脳科学理論に基づく夢と希望の教育」としました。その中の重点施策の一つとして「小中一貫教育のさらなる深化」が求められているところです。

さて、河合小中で小中一貫教育が始まって早7年。「河合型小中一貫教育」が児童生徒・保護者・地域・教職員にとって「当たり前」となったことは成果としては大きいと考えています。児童生徒や教職員のがんばり、保護者や地域の温かい支援や協力、どれをとってもピカイチです。では、今後ともご理解とご協力をお願いしつつ、本年度の取り組みを紹介します。

1. 授業づくり

4年前から「教師の思い」を起点とした授業づくりをテーマとして小中合同で研究授業を進めています。児童生徒と教師が共に主体となり学び合う学習をめざして、小中合同のグループを作り、教職員全員が研究授業を行いました。

3年生体育科「体づくり運動(かけ足)」では「自分に合ったペースを模索し、そのタイムとの誤差をなくす練習の中で長距離を走る技能を獲得し、長い距離を走ることへの抵抗を軽減させたい」という起点を持って取り組みました。児童たちは運動場でchromebookを使い、1周の目標タイムを記録し、それをもとに目標に近いペースで走る練習を繰り返しました。グルーピングを重視し、声を掛け合ったり一緒に練習したりする中で意欲や技能の向上とともに、走ることへの抵抗が軽減するように、というねらいを授業者が持っていたため、児童たちは持久走が得意、不得意であることとは関係なく、自分のタイムにも友達の時にも興味を持っていきいきと活動していました。タイムが速いことに価値を置くのではなく、自分に合ったペースを見つけることが目標となっていたこともあり、普段は持久走に苦手意識を持っている児童が笑顔で取り組んでいる姿が印象的でした。

8年生の家庭科では「私たちの食生活(バランスの良い食事について考えよう)」という単元で研究授業を行いました。授業者は河合の授業づくりが始まってから何度か食生活の分野で研究授業を行ってきました。研究を進める中で、教科書にあるような栄養の知識を伝えるだけでは生徒の将来に役立たないのでは？という思いを持つようになり、今年は「自分が納得できる食事を選択する」という活動に挑戦しました。「何を大切にして食事内容を考えるか検討しよう」という発問を生徒たちに投げかけ、それに対して生徒たちはインターネットから必要な情報を探し、それをもとに班で議論をしました。何を重視して食事を選択するか、という話し合いからは、栄養素や味、値段以外にも「安全性」「愛情」という項目が多く挙がるなど、多様な視点で食について考える姿が見られました。

紹介した授業以外にも、どの授業者も「子どもたちはなんのためにこの単元を学ぶのか」ということを自問し続けて授業づくりをしています。その問いの答えになかなかたどりつけず、悩むことも多々あります。しかし、考えれば考えるほど子どもたちがどんな風に考えるか、どんな姿を見せるか楽しみになってきます。今後も児童生徒と教師が主体—主体の関係になって「未来を切り拓く協働的で探究的な学びの創造」という研究主題に向かって授業づくりをしていきたいと考えています。



2. 文化づくり

〈結束 ～想いはひとつ～〉

(体育祭スローガン)

新型コロナウイルス感染症の影響で、5月に実施予定だった合同体育祭を10月23日に日程を変更して実施しました。河合小中学校の9学年が揃う唯一の機会である合同体育祭でつながりを強めるために、児童生徒たちが試行錯誤しながら、一生懸命に練習や体育祭本番に取り組む姿が印象に残っています。

今年度も3部構成で、1部は各学年の表現やリレーで「魅せる」演技を、2部では応援合戦と大玉リレーで「かかわり」を意識した演技を、3部では綱引きで「一体感」を感じられる演技を目指して、練習から一生懸命に取り組みました。限られた時間、限られた条件の中で、一つ一つの競技種目に対して全校児童生徒が本気となって取り組んだことで、演技の完成度が高まり、それぞれのねらいに迫ることにつながったと思います。

また、児童生徒会が中心となり、9学年の「かかわり」と「一体感」を高めるために、オリエンテーションでの紅白に分かれての玉入れや、体育祭終了後の自主的な発表を中心とした振り返りの時間を企画することで、児童生徒が主役となって今年度の体育祭を創り上げることができたのだと思います。全校児童生徒が一つの「輪」になる姿に、仲間と協力し、一生懸命に行事に取り組むことの大切さを改めて感じました。そして、この合同体育祭での学びを一つの行事として終わらせるのではなく、次の行事へ、普段の学校生活、学級づくりへとつなげていけることと思っています。

3学期は、3月14日に「小中特たて割りふれあい講座」を計画しています。本年度は当初、特別支援学校の児童生徒の参加を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ例年通り小中学校で実施することとなりました。一方で、小学校の参加学年を広げ、4～9年生が20講座に分かれることで、普段の授業や行事では得られない学びや縦のつながりをねらいとしています。20講座のうち6講座では、地域の方々を講師としてお招きし、子どもたちに直接教えていただきます。また、会場は河合小中のほか、河合地区の施設(掘井城跡ふれあい公園、アルテ、河合歴史散歩で訪れる史跡)などを利用し、地域を知るきっかけになることを願っています。子どもたちにとって、新たな気持ちでこの河合地区のよさを感じ、学年や学校の枠を超えた出会いやかかわり、豊かな学びが得られる機会になることを期待しています。



3. ふれあいの日

今年度も、河合小学校の5年生が河合中学校舎の生活にふれることを主な目的として2学期に2日間の「ふれあいの日」を実施しました。(1学期と3学期は新型コロナウイルス感染症の状況のため中止しました)

当日は、中学校舎で5年生が6・7・8・9年生との合同授業を受けました。6年生と総合、7年生と学活、8年生と英語、9年生と体育の授業を一緒に行いました。9年生との合同体育はバスケットボールでした。パスやドリブル、シュートなどを上手に出来る方法を教えてもらいました。一緒に練習をしましたが、「どうやったらいいのかわか」など学年を超えて話し合う姿もありました。7年生との学活では、新聞を使ってタワーを作り、高さを競い合う中で、子どもたち同士の自然なやり取りの姿がたくさん見られました。

また、中学校舎の調理室で家庭科の調理実習をしみそ汁を作りました。いつもと違った雰囲気の中でしたが、上手に作る事ができ、5年生の喜ぶ姿が見られました。1日の最後には、上級生と一緒に清掃に取り組みました。子どもたち同士がつながることも「ふれあいの日」の目的です。一つひとつの姿の中に河合小中一貫教育で培ってきた温かさが見えました。

